

(学校番号005) 令和4年度版「学力向上ポータルフォリオ（学校版）」【仲本小学校】

4月26日		
目標・策		
知識・技能	令和4年度全国学力・学習状況調査における自校の平均正答率で、令和3年度の平均正答率を上回るようにする。	⇒ ・朝の基礎学習タイムを活用して国語、算数の学習の習熟や定着を図る。 ・「ドリルパーク」や「学習探検ナビ」、「スタサプ」等を活用して、学習内容の習熟、定着、復習を図る。
思考・判断・表現	令和4年度全国学力・学習状況調査「思考力・判断力・表現力」における自校の平均正答率で、令和3年度の平均正答率を上回るようにする。	⇒ ・PCタブレットを活用した授業展開で「わかりやすい授業」「個別最適化された授業」の実施。 ・授業の中に自力解決の時間を位置づけるなど、「個」で考える時間を確保することで、児童の思考を促したり、個別の支援をしたりして、「個別最適化された授業」の推進を図る。
主体的に学習に取り組む態度	令和4年度全国学力・学習状況調査及びさいたま市学習状況調査における「課題の解決に向け、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問事項において、肯定的な回答の割合を90%以上にする。	⇒ ・「さいたま市『アクティブ・ラーニング』型授業」の視点からの授業改善を図る。 ・IOT教育推進部を中心とした校内組織と学校課題研修による「わからなかったことがわかるようになる。わかったことがさらにわかるようになる」学ぶ意義を実感できるタブレットPC等を活用した授業方法や教材の研究、推進を図る。

9月〇〇日		
中間期見直し（全国学力・学習状況調査結果分析後）		
知識・技能		⇒
思考・判断・表現		⇒
主体的に学習に取り組む態度		⇒

8月25日	
全国学力・学習状況調査結果	
全国学力・学習状況調査結果・分析	
<p>(国語) ・全体としてよく学習が定着している。 ・「読むこと」に関して、8割弱の正答にとどまり、一定数の児童が十分に読み取れていない。⇒読み取れていない児童に個別の手立てが必要 ・「書くこと」に関して、文章のよいところについて、一定の条件のもと書く問題の正答率が低い。⇒思考力・判断力・表現力の等の向上を図る</p> <p>(算数) ・すべての問題において学習の定着が顕著である。 ・およそ8割の児童が、言葉や数で説明することができる。 ・目的に合った数の処理、日常の具体的な場面に対応した割合の理解が、全国・県同様に課題がある。⇒日常の場面に対応させた理解が必要</p> <p>(理科) ・すべての問題において学習が定着している。 ・昆虫の身体づくり、実験器具の名前など、基本的な事項が身につけていない児童がいる。⇒基礎・基本の定着を図る ・結果などをもとに自分の考えをもち、それを表現することに課題のある児童がいる。⇒分析した内容などを根拠に表現する力が必要</p> <p>【対応策】 ・朝の時間「基礎・基本タイム」におけるタブレット等を活用した繰り返し学習による基礎・基本の定着 ・授業1単位時間における自分で考える時間「自力解決」の時間の確保による思考力・判断力・表現力の向上 ・「自力解決」の時間における個別支援、タブレット等を活用した一層の個別最適化な学びと協働的な学びによる個々の児童への手立ての充実 ・算数における具体物による操作活動や理科の観察や実験など、一層の実体験や活動の重視</p>	

2月27日			
さいたま市学習状況調査結果・分析			
小3	国語・算数ともに平均正答率が、市の平均正答率を3ポイント以上を上回っている。また、生活習慣調査も肯定的な回答が高い数値を示している。しかし、算数「測定」については、学年末に復習する必要がある。	小4	国語・算数ともに平均正答率が、市の平均正答率を5ポイント以上を上回っている。また、生活習慣調査も肯定的な回答が高い数値を示している。しかし、算数において正答率が低い児童がみられるので、個別最適化な学びを実現し、個人差に対応していく必要がある。
小5	国語・算数・社会・理科それぞれの平均正答率が、市の平均正答率を5ポイントほど上回っている。また、生活習慣調査も肯定的な回答が高い数値を示している。しかし、社会「歴史と人々の生活」や理科「粒子を柱とする領域」については、学年末に復習する必要がある。	小6	国語・算数・理科の平均正答率が市の平均正答率を7ポイント以上大幅に上回り高い学力を示している。また、社会についても3ポイント上回っている。また、生活習慣調査も肯定的な回答が高い数値を示している。いずれも本校6年生児童の学力の高さを示している。

2月28日		
成果指標に対する達成状況		評価（※）
知識・技能	年度当初の目標としていた「令和4年度全国学力・学習状況調査における自校の平均正答率で、令和3年度の平均正答率を上回るようにする。」は、国語は9.5ポイント上回り、算数は2.3ポイント下回った。しかし、令和4年度の調査結果としては全国の平均正答率をそれぞれ1.0ポイント以上上回っており、概ね目標を達成しているものと考えられる。	A
思考・判断・表現	年度当初の目標としていた「令和4年度全国学力・学習状況調査における自校の平均正答率で、令和3年度の平均正答率を上回るようにする。」は、国語は3.6ポイント上回り、算数は0.4ポイント下回った。しかし、令和4年度の調査結果としては全国の平均正答率をそれぞれ1.0ポイント以上上回っており、概ね目標を達成しているものと考えられる。	A
主体的に学習に取り組む態度	令和4年度全国学力・学習状況調査及びさいたま市学習状況調査における「課題の解決に向け、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問事項において、全国学調では92.7%、市学調では5年生が91.8%、6年生が94.1%の児童が肯定的な回答であった。このことから目標は概ね達成できたと考えられる。	A

3月3日	
次年度への課題と改善策	
知識・技能	(課題) 一定数いる正答率の低い児童への対応。 (改善策) ・朝の基礎学習タイムを活用して国語、算数の学習の習熟や定着を継続していく。 ・「ドリルパーク」や「学習探検ナビ」、「スタサプ」等を活用して、学習内容の習熟、定着、復習を図るとともに、家庭での活用を充実させていく。
思考・判断・表現	(課題) 一定数いる正答率の低い児童への対応と一層の「思考・判断・表現」する力をつける。 (改善策) ・PCタブレットを活用した授業展開で「わかりやすい授業」「個別最適化された授業」の継続の実施。 ・授業の中に自力解決の時間を位置づけるなど、「個」で考える時間を確保することで、児童の思考を促したり、個別の支援をしたりして、「個別最適化された授業」の一層の推進を図る。さらに、考えを豊かに伝え合うことで、自分の考えを広げ深めるようにする。 ・さいたま市が推進する「じ・し・や・か」を授業づくりのポイントとし、個別最適化学び、協働的な学び、探求的な学びの具現化に努めていく。
主体的に学習に取り組む態度	・学習計画を児童とともに立て、課題に設定から振り返りまでの学習の流れを定着させることで、児童が自らの学びを調整できるようにしていく。 ・IOTを活用した自立した学びを支えることを継続するとともに、「わからなかったことがわかるようになる。わかったことがさらにわかるようになる」学ぶ意義を実感できる授業方法や教材の研究の一層の推進を図る。

※評価
 A 8割以上（達成） C 4割以上（あと一歩）
 B 6割以上（概ね達成） D 4割未満（不十分）